

# 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	女性の再チャレンジ支援プログラム		
事業名	働きたい女性のためのITスキル基礎力とビジネススキル養成講座の実践		
法人名	学校法人最上広域コア学園		
学校名	新庄コンピュータ専門学校		
代表者	理事長 村上 國雄	担当者 連絡先	事務長 結城 和則
<p>1. 事業の概要</p> <p>女性の雇用形態は、男性の雇用形態と同様、本採用社員、派遣社員、臨時社員、パート社員、アルバイト社員など多様化し、本採用社員が減少して、契約社員、パート社員、アルバイト社員の割合が増加し、不安定な状態にある。加えて、結婚・出産・子育ておよび介護などによる長期の離職という女性特有の問題があり、女性の雇用を更に不安定なものとしている。こうした女性たちが、再就職する際に直面する大きな障壁として、ITスキルの急速な進歩、雇用情勢の激変、求職スキルの変化などの問題がある。</p> <p>再就職を希望する女性たちの地元企業への就職を強力に支援するために、事務職員としての必要不可欠なITスキル、ビジネススキルを習得させるとともに、最新の求職スキルを身に付けさせることを目的として、地元企業、派遣事業者、社会保険労務士等と連携して「働きたい女性のためのITスキル基礎力とビジネススキル養成講座」を実施する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>(1)事業の目的</p> <p>本事業にあつては、結婚・出産・子育て・介護等による長期の離職を余儀なくされている女性の立場を考慮して、次の三つの目的を事業の重点目標とした。すなわち、</p> <p>a. 再就職に必要な最低のITスキルを習得させるためのITスキル基礎力養成カリキュラム(168時間:主としてWord、Excelの基礎・活用・3級資格取得まで)の実施</p> <p>b. ビジネススキル養成カリキュラム(60時間)の実施</p> <p>c. 子育て中の受講者に対する配慮事項として、託児支援の実施(なお、介護が必要な同居人を持つ受講者は、本年度講座においては存在しなかった)</p> <p>(2)重点事項の達成状況</p> <p>上述の三つの重点事項は、概ね順調に実施されたが、次の二つの点で、若干の問題ないしは計画の見直しが生じた。</p> <p>a. 託児支援</p> <p>託児支援の手順に若干の問題が生じた。すなわち、受講者中、6名(子供は7名)が託児支援を必要としており、本校は、本講座開始前に、特定の託児所と保育委託契約を締結した。しかし、本校の指定する託児所の雰囲気を受講者及びその子が慣れることが出来ず、受講者が他の託児所による保育を要望する問題が発生した。本校は、すでに指定していた託児所との間の委託契約をただちに解除し、受講者の希望する託児所との間で新たな委託契約を締結し、事なきを得た。</p> <p>b. 派遣登録会開催の見送り</p>			

本校は、再就職支援の一環として、地元の労働者派遣事業者2社を本校に招き、事務職の派遣登録会を開催する予定であったが、「本地域においては、まだ事務職の派遣登録を積極的に行える環境が整っていない」という地元派遣業者の判断に基づき、本年度事業における派遣登録会の開催を見合わせる事となった。

## ②事業により得られた成果

### (1)受講者募集について

本養成講座定員15名に対して32名の応募があり、募集活動については満足すべき結果となった。本校が募集に際して留意した点は、次の通りである。

- ①各自治体の協力を得て、各戸回覧という募集方法を取り入れた。
- ②新聞折込チラシの配布を二回するなど周知に努めた。
- ③子育て支援を行なっている自治体の各施設に募集チラシを配布してもらった。

### (2)ITスキル基礎力養成カリキュラムについて

- ①はじめてパソコンにさわる方にも対応できるように基礎から学習できるカリキュラムにしてあり、概ね好評であった。
- ②15名全員がWord文書処理技能認定試験3級を取得、14名がExcel表計算処理技能認定試験3級を取得した。パソコンにはじめて触れる受講者もいたが、一定の成果を収めることができた。
- ③受講後の感想によれば、「ほとんどパソコンがわからずに受けた講座でしたが、今ではWord、Excel、PowerPoint等ができるようになりました」、「今まできちんと作成することができなかった職務経歴書や添え状等自信を持って提出することができます」など再就職に向けたスキルアップがはかれた。
- ④「資格試験が近づくにつれて緊張感がでて、とても充実して取り組めた」ということで、資格試験を目標設定にすることが学習に効果的であると言える。

### (3)ビジネススキル養成カリキュラムについて

- ①講座終了3ヶ月後のフォローアップ調査によれば、4名が就職し、11名が就職活動中であるが、子育て中などの事情を考慮しても、前向きに応募をしている受講者が多くあり、一定の成果を収めたものとする。
- ②ビジネススキル養成カリキュラムについては、子育てを経験している女性のキャリアカウンセラーを講師に迎えての講義であったが、受講者から「先生の何事にも前向きに考えられる姿勢に驚いた」、「子育てをしながらやりたいことを見つけて資格を取ったり、自分の道をしっかり見つけていてすごうらやましいと思った」、「先生の話聞き仕事をしたいという思いが一層強くなった」など、同じ立場のカウンセラーを通じて再就職に向けた意識の高揚がはかれた。
- ③自己紹介やガイダンスを通じて、「久々に自分を見つめ直すいい機会を得た」、「カウンセラーの先生の前向きな姿勢に感動し、カウンセラーの勉強もしてみたいと思った」、「自己紹介は仕事に向かう姿勢であり、自分の長所をあげることであるという認識が持てた」など、社会と自分の関わり方に対する再認識ができた。
- ④履歴書・職務経歴書の書き方では、「パソコンで作成することができるようになった」、「言葉の使い方、表現の仕方など学ぶことがたくさんありました」など、応募書類の書き方や重要性について再認識できた。
- ⑤キャリアカウンセリングでは、「足踏みしているような自分の背中を押してもらった感じがします」、「こういう仕事は適職ではないか、などのアドバイスをいただいた」、「強気で行こうとアドバイスをいただいた」など、今後の就職に向けての姿勢を確認できた。
- ⑥社会保険や労働法についての学習では、「育児休業制度などの子育て中の自分にとって身近な話が聞けてよかった」、「源泉徴収などの実際の書類に記入することで、そのしくみについて少し分かった気がする」など、事務の書類の多さに困惑しながらも、給与や労働保険のしくみについて理解が深まった。

⑦ビジネスマナー・模擬面接では、「どんな場合でも緊張せずにゆとりを持って対応できるように、あらかじめ、自分の考えを持って行動しなければいけない」、「数回しか経験のない面接を模擬面接という形で体験でき、緊張しました」、「面接者側も体験できて、どこが見られているかもわかってよかった」など、挨拶の仕方やその大切さを面接者側からの視点からも体験できた。

⑧プレゼンテーション実習では、5人一組で発表するための資料作成という課題を与え、グループ学習を体験させた。みんなで一つの課題に向かうことで、コミュニケーションの大切さも学習した。

#### (4) 子育て支援

子育て中の女性の立場からは、「子供を預けて何かをするというのが、今までまったくなかったもので、自分にとっても子供にとってもすごく新鮮でよかったと思います」、「17年ぶりに社会に出て、世の中とはこんなに楽しいものだったのかと再認識できた2ヶ月だった」、「託児付きと受講時間帯が子供を持つ親にとっては、とてもありがたかった」などの感想があった。講座の趣旨でもある男女共同参画社会実現に向けた取り組みの一翼を担えたとと言える。

#### (5) 受講者の満足度

実証講座受講後のアンケート調査から、受講者の満足度については、5段階評価で5の大変満足が13名、4のやや満足が2名である。

### ③ 今後の活用

本養成講座の受講者たちの反応・感想はきわめて好評であった。例えば、「全38日間(1日6時間)の講座が充実していて本当に短く感じられた」、「キャリアカウンセラーの先生がとても情熱的で、職務経歴書等を自信をもって書けるようになった」、「託児支援がなければ、何かに一歩踏み出すことはできなかったであろう」という受講者たちの声は、本養成講座の特長を如実に反映するものである。本養成講座において実施されたITスキル基礎力養成プログラム、ビジネススキル養成カリキュラムおよび託児支援を組み合わせた女性の再チャレンジ支援プログラムは、妻であり、母である女性受講者たちの労働意欲と労働能力、社会参加への意識をまちがいなく高めるのに寄与したと評価できる。特に、子育て中の女性の立場に配慮して、子育てを経験したキャリアコンサルタント(女性)を選任して、模擬面接等を実施するとともに、求職スキル、社会保険と税金、労働法およびその関連法(育児・介護休業法、男女雇用均等法等)に関する知識を提供することができたことは、地域の女性の意識を若干でも高めるのに貢献したものと自負している。

本校は、本養成講座を更に発展させて、地域における女性の就職支援に寄与したいと考えている。本養成講座の応募者は32名であり、そのうち17名の方々が本講座受講の機会を逸している。本校による独自の講座開設も視野に入れるべきか検討中である。

### ④ 次年度以降における課題・展開

#### (1) ITスキル基礎力養成カリキュラムの高度化

経済不況が深刻化し、雇用情勢が悪化しつつある状況下では、弱者の立場にある女性にしわ寄せが来ることが懸念される一方、企業としても、特定の知識と技能に特化した即戦力たる人材を求める傾向を強めるように思われる。このような傾向は、求職者が多い事務職において、すでに顕著になっているようである。こうした情勢において、ITスキル基礎力養成カリキュラムについては、Word2級、Excel2級などといった、より高度のIT技術の習得に向けたカリキュラムへと発展させなければならないし、また、事務系の仕事に必要な簿記なども、カリキュラムに加える必要があるだろう。そのためには、講座期間の延長も考慮する必要がある。

#### (2) 託児支援上の問題

託児支援については、6名の利用者全員に好評であった。

しかしながら、受講者自身と関係託児所間ではなく、講座実施者たる本校と関係託児所間での保育委託契約の締結が義務づけられている関係上、本講座実施前に締結された保育委託契約が、託児所利用者たる受講者(とその子)の便益に必ずしも適合せず、当該契約を解除して、受講者の希望する託児所との間で新たな保育委託契約を締結せざるをえないこととなったことは、前述の通りである。

本講座と同様な託児支援を行う場合、託児所利用者たる受講者(とその子)の安心を確保するために、講座開始前の早期の段階で、託児所に関する受講者の意向を把握した上で、託児所の選定を行う必要があると考えている。

なお、今年度の養成講座の受講者の同居家族の中には、要介護者や要支援者たる高齢者が存在せず、介護サービスもしくは生活支援サービスの需要はなかったけれども、今後、同様な養成講座において、これらのサービスが必要となる場合、上記の託児所選定と同様な配慮が必要となるものと考えられる。すなわち、在宅介護サービス施設またはデイケア・サービス施設の選定(学校による選定)にあたっては、事前に受講者ならびに要介護者(要支援者)の意向を正確に把握しておく必要があると思われる。

### (3) 養成講座受講者の就職率アップのための方策

未曾有の金融破綻に端を発した実体経済の深刻な不況の中、山形県下の有効求人倍率(0.59倍)は全国平均よりも低く、新庄・最上地域の有効求人倍率は0.49倍と更に低迷している。このような本地域における求人状況の冷え込みに直面して、受講者の就職をハローワーク等の公的機関だけに委ねている現状では、就職率のアップはそれほど期待できないのではないかと憂慮している。

本校は、このような現状を打開し、就職率のアップをはかり本養成講座の実効性を高めるために、新たに有料職業紹介事業(職業安定法30条以下)と一般労働者派遣事業(労働者派遣事業法5条以下)に着手し、養成講座受講者の職場の確保・開拓を積極的に進めていく方針である(本校は、すでに両事業の許可申請を完了している)。本校は、創立以来21年にわたる教育事業を通じて、地元8市町村の全額出資の第三セクターとして地域の自治体、企業、施設等との太いパイプを築き上げて来た。こうしたパイプは、地域内にある、きめ細やかな求人・求職情報の収集に大いに寄与するものと考えている。

### (4) 派遣登録会開催の見送り

本校は、再就職支援の一環として、地元の労働者派遣事業者2社を本校に招き、事務職の派遣登録会を開催する予定であったが、「本地域においては、まだ事務職の派遣登録を積極的に行える環境が整っていない」という地元派遣業者の判断に基づき、本年度事業における派遣登録会の開催を見合わせる事となった。本校による派遣事業の立ち上げとともに、今後の課題としたい。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①履修証明書等

「働きたい女性のためのITスキル基礎力とビジネススキル養成講座」(総時間数228時間)の修了者15名に対して、修了証書を発行した。

### ②カリキュラムの内容

#### (1)「働きたい女性のためのITスキル基礎力とビジネススキル養成講座」のカリキュラム

以下の二つのカリキュラムからなる。

#### ①ITスキル基礎力養成カリキュラム(総訓練時間 168時間)

事務職を目指すためのITスキルとして、Word、Excelの基礎を学び、Word文書処理技能認定試験3級及びExcel表計算処理技能認定試験3級の資格取得を目指す。

訓練内容は、Word実習(60時間)、Excel実習(60時間)、資格試験対策(48時間)の3項目で編成されている。

## ②ビジネススキル養成カリキュラム(総訓練時間 60時間)

基本的な求職活動の仕方に関する学習、キャリアコンサルタントによるキャリアカウンセリング、面談等を通じて、再就職に向けた知識技能を身に付ける。

訓練内容は、ガイダンスと自己紹介および雇用形態について(6時間)、履歴書の書き方・職務経歴書の書き方(6時間)、キャリアカウンセリング(12時間)、社会保険と税金(6時間)、労働法および関連法律(育児・介護休業法、男女雇用機会均等法)(6時間)、ビジネスマナー・模擬面接(6時間)、プレゼンテーション実習(18時間)の7項目で編成されている。

## ③講座の実施

### (1)実証講座「働きたい女性のためのITスキル基礎力養成講座」の実施

#### ①実証講座名

「働きたい女性のためのITスキル基礎力養成講座」

#### ②期 間

平成20年9月24日から平成20年11月18日まで(38日間)

#### ③受講者の募集方法

- ・本校ホームページでの告知
- ・最上8市町村広報掲載
- ・ハローワーク募集協力(新庄・酒田・鶴岡・村山・山形)
- ・山形県若者就職支援センター募集協力(庄内、山形)
- ・最上8市町村各戸回覧
- ・新聞折込チラシ(最北地区 市内13,550枚 郡部11,800枚)2回
- ・新聞記事掲載(山形新聞)

#### ④受講者の選抜方法・選考結果

・対象 20歳以上50歳程度までの女性で、子育てや介護などにより一旦就業を中断した女性

- ・応募者数 32名
- ・応募者内訳 新庄市21人、金山町3人、鮭川村3人、真室川町2人、大蔵村2人、酒田市1人
- ・選考試験日 平成20年9月18日
- ・選考試験内容 適性試験、面接
- ・受験者数 26名
- ・選考結果 15名を選考

#### ⑤受講者 15名

- ・平均年齢 35.1歳
- ・年齢別 20～29歳 3名  
30～39歳 7名  
40～49歳 5名
- ・出身地別 新庄市 10名  
金山町 1名  
真室川町 1名  
鮭川村 2名  
大蔵村 1名
- ・託児希望 6名(子供は、7名)

#### ⑥修了証書授与式・特別講演会・成果発表会の実施

- ・日 時 平成21年11月28日(金)13:30～15:30
- ・場 所 最上ニューメディアセンター研修室
- ・プログラム

第一部 修了証書授与式 13:30～13:50

- 1) 修了証書授与
- 2) 校長よりねぎらいの言葉

第二部 特別講演会 14:00～14:50

講演テーマ:「明日からの私」

講師:財団法人山形県男女共同参画センター  
館長 金澤 和子 氏

第三部 成果発表会 15:00～

- 1) 事業成果発表 15:00～15:20

- 受講者による成果発表1
- 受講者による成果発表2
- 受講者による成果発表3

- 2) 質疑・総評 15:20～15:30

#### ⑦実証講座の特徴

・ITスキル習得の最低目標として、Word文書処理技能認定試験3級及びExcel表計算処理技能認定試験3級の資格取得を設定した。

・ITスキルの習得に加えて、再就職に向けたスキルアップのために、キャリアカウンセリングによる個別指導や模擬面接の実施などを行なった。

・ビジネススキル養成カリキュラムの中に、プレゼンテーション技法を取り入れ、報告会で発表する資料をPowerPointで作成するとともに、プレゼンテーションの実習も行なった。

・実習場所である(株)東北情報センターの研修室で、受講者は、社員同様、入社・退社時間を記録した。同社は、プライバシーマークを取得しており、受講者もセキュリティの重要性を実感することができた。

#### ④支援対象者(受講者)の状況

・実証講座「働きたい女性のためのITスキル基礎力養成講座」を受講した15名の受講者全員が実証講座を修了し、15名全員がWord文書処理技能認定試験3級を取得、14名がExcel表計算処理技能認定試験3級を取得した。パソコンにはじめて触れる受講者もいたが、一定の成果を収めることができた。

・ITスキルについては、受講後の感想によれば、「ほとんどパソコンがわからずに受けた講座でしたが、今ではWord、Excel、PowerPoint等ができるようになりました」、「今まできちんと作成することができなかった職務経歴書や添え状等自信を持って提出することができます」など、再就職に向けたスキルアップがはかれた。

・ビジネススキル養成カリキュラムについては、子育てを経験している女性のキャリアカウンセラーを講師に迎えての講義であったが、受講者から「先生の何事にも前向きに考えられる姿勢に驚いた」、「子育てをしながらやりたいことを見つけて資格を取ったり、自分の道をしっかり見つけていてすごうらやましいと思った」、「先生の話聞き仕事をしたいという思いが一層強くなった」など、同じ立場のカウンセラーを通じて再就職に向けた意識の高揚がはかれた。

・子育て中の女性の立場からは、「子供を預けて何かをするというのが、今までまったくなかったので、自分にとっても子供にとってもすごく新鮮でよかったです」、「17年ぶりに社会に出て、世の中とはこんなに楽しいものだったのかと再認識できた2ヶ月だった」、「託児付きと受講時間帯が子供を持つ親にとっては、とてもありがたかった」などの感想があった。講座の趣旨でもある男女共同参画社会実現に向けた取り組みの一翼を担えたと言える。

・講座終了3ヶ月後のフォローアップ調査によれば、4名が就職し、11名が就職活動中であるが、子育て中などの事情を考慮しても、前向きに応募をしている受講者が多くあり、一定の成果を収めたものと考えられる。